

平成21年5月29日現在

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2005～2008  
 課題番号：17520012  
 研究課題名（和文） 西洋近代観念説における観念の論理空間の比較研究  
 研究課題名（英文） A Comparative Study of the Logical Spaces of 'ideas' in the Western Modern Theory of Ideas  
 研究代表者  
 富田 恭彦（TOMIDA YASUHIKO）  
 京都大学・大学院人間・環境学研究科・教授  
 研究者番号：30155569

## 研究成果の概要：

西洋近代観念説は、基礎づけ主義的な色彩の濃いデカルトにおいてすら、元来、自然主義的論理空間を有していた。この論理空間が、バークリ、ヒューム、カントにおいてどのように歪められていったかが、本研究によってかなり明確となり、これによって、西洋近代観念説の歴史を従来とはまったく異なる視点から見る事が可能となった。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	1,400,000	0	1,400,000
2006年度	700,000	0	700,000
2007年度	700,000	210,000	910,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	3,500,000	420,000	3,920,000

## 研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学 哲学・倫理学

キーワード：観念説 観念 物そのもの 物自体 自然主義 ロック バークリ カント

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、申請時にすでに、西洋近代観念説が基本的に自然主義的論理空間を有していたことを解明しつつあり、その仕事は、ヨーロッパの専門誌等に発表され、国際的に認知されていた。

## 2. 研究の目的

ロック以後の西洋近代観念説が、その自然主義的論理を歪めることによってその歴史を形成していったことを、いくつかの観念説ないし表象説を比較することによって確認すること、これが本研究の目的である。

## 3. 研究の方法

典型的な自然主義的論理を示すロックの観念説と、ロック以後の観念説・表象説、とりわけバークリ、ヒューム、カントのそれを、通時的推移を確認しつつ比較することによって、自然主義的論理空間がどのように崩れていったかを明らかにすることが、ここで採られた方法である。

## 4. 研究成果

その結果、バークリ、ヒューム、カントにおいて、どのような仕方で自然主義的論理空間が歪められたかが、その全体像において確認された。成果の具体的な内容は、次項の諸

文献が示す通りである。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

- ① Yoshiko Takenaka and Yasuhiko Tomida, 'Locke's Naturalism Reconsidered: From the Viewpoint of Modern Microphysics', in Yasuhiko Tomida (ed.), *Locke and Kant: A Report of the JSPS Scientific Research 2005–2008* (Kyoto: Kyoto University, 2009), 25–35. 査読なし。
- ② Yasuhiko Tomida, 'Locke's "Things Themselves" and Kant's "Things in Themselves": The Naturalistic Basis of Transcendental Idealism', in Sarah Hutton and Paul Schuurman (eds.), *Studies on Locke: Sources, Contemporaries, and Legacy* (Dordrecht: Springer, 2008), 261–70. 査読あり。
- ③ Yasuhiko Tomida, 'Locke's Representationalism without Veil', *British Journal for the History of Philosophy*, 13 (2005), 675–96. 査読あり。
- ④ Yasuhiko Tomida, "'Separation" of Ideas Reconsidered: A Response to Jonathan Walmsley', *Locke Studies*, 5 (2005), 39–56. 査読あり。

[学会発表] (計 1 件)

- ① 富田恭彦「古典的経験論と自然主義」、日本イギリス哲学会第 31 回研究大会招待講演、同志社大学、2007 年 3 月

[図書] (計 6 件)

- ① Yasuhiko Tomida (ed.), *Locke and Kant: A Report of the JSPS Scientific Research 2005–2008* (Kyoto: Kyoto University, 2009), xii+72.
- ② Yasuhiko Tomida, *Quine, Rorty, Locke: Essays and Discussions on Naturalism* (Hildesheim, Zürich, and New York: Georg Olms, 2007), xx+176.
- ③ Yasuhiko Tomida, *The Lost Paradigm of the Theory of Ideas: Essays and Discussions with John W. Yolton* (Hildesheim, Zürich, and New York: Georg Olms, 2007), xix+220.
- ④ 富田恭彦『アメリカ言語哲学入門』、ちくま学芸文庫、2007 年、321 頁 (『アメリカ言語哲学の視点』改訂増補版)
- ⑤ 富田恭彦『対話・心の哲学——京都より愛をこめて』、講談社現代新書、2006 年、297 頁
- ⑥ 富田恭彦『観念説の謎解き——ロックとバークリをめぐる誤読の論理』、世界思想社、2006 年、235+viii 頁

[その他]

なし

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

富田 恭彦 (TOMIDA YASUHIKO)

京都大学・大学院人間・環境学研究所・教授